

大学の世界展開力強化事業（平成28年度採択）中間評価結果

大 学 名	東京学芸大学
整理番号	A-②-3
事 業 名	東アジア教員養成国際大学院プログラム

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) <div style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">A</div>	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント) <p style="margin-top: 20px;">本プログラムは、日中韓の教員養成大学の拠点である東京学芸大学、北京師範大学、ソウル教育大学の3大学が共同し、教員養成大学院プログラムにおける東アジア地域の相互理解と連携を担える学校教員、スクールリーダー及び教育研究者を育成することを目的とする時宜を得た取組である。</p> <p>これまでの交流プログラムの実績等を踏まえ、3大学間の協議を基にそれぞれの特色を活かした内容と相手大学のニーズを満たす事業展開を図っている。また、教員養成という目標の下、制度の異なる3か国による連携プログラムの構築のため各大学はキャンパス・アジア指定科目を定めており、履修する交換留学生の相互理解を深めている。さらに、単位互換についても綿密な議論を重ねた上で基準を定めており、質の保証を伴う交流基盤が整えられているものと言える。そのほか学生の学修環境についても、受入学生に東アジア地域に留学予定の日本人学生をチューターとして配置することで、学生同士が学修意欲を高め合えるような工夫を施している。</p> <p>一方で、今後開始されるダブル・ディグリープログラムについては、指定科目の活用方法の明確化や履修要件の明示などの基盤整備を一層進めるとともに、キャリアパスを明示して学生にインセンティブを与えるような仕組みを作り、長期派遣・受入を推進するための体制を整えることが求められる。また、外国語力基準を達成した学生が少ないことから、支援・指導体制の充実に努め、より柔軟に対応していくことが望まれる。</p> <p>最後に、今後も補助期間終了後の継続的な実施を見据えた事業計画の策定と安定的な財源確保に努め、学内及び関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進と将来の我が国の更なる発展に向け、積極的に事業を展開していくことが期待される。</p>	